

益田市 農業経営基盤強化の促進に関する基本的な構想 新旧対照表	
改正案	現行
農業経営基盤の強化の促進に関する 基本的な構想 令和5年9月 益田市	農業経営基盤の強化の促進に関する 基本的な構想 平成26年9月 益田市
改正案	現行
第1 農業経営基盤の強化の促進に関する目標 1. 自然的条件等 益田市は、面積が、733.19㎢で、島根県の総面積の約1割を占め、県内最大の広さである。 また、標高は0m～700mと高低があり、気候は比較的温暖な地域から積雪の厳しい地域までと、変化に富んでいる。 年間平均気温は15～17℃で、年間平均雨量1,500mm～1,700mm程度である。 2. 農業・農村の現状と課題 (1) 主要農産物について 稲作については、良質・安定生産の「コシヒカリ」、「きぬむすめ」及び「つや姫」の生産を推進している。	第1 農業経営基盤の強化の促進に関する目標 1 自然的条件等 益田市は、<u>島根県の最西端にあつて山口県及び広島県と接しており、北は日本海を望み、南は中国山地に至る、山陰と山陽を結ぶ交通の要衝地である。</u> 面積は、733.24㎢で、島根県の総面積の約1割を占め、県内最大の広さである。 <u>市域の大半は中国山地の一端を形成する林野が占めている。その中国山地に源を発する一級河川高津川および益田川が主要河川となって日本海に注いでおり、下流部に益田平野が三角州状に広がっている。</u> また、標高は0m～700mと高低があり、気候は比較的温暖な地域から積雪の厳しい地域までと、変化に富んでいる。 年間平均気温は15～16℃で、年間平均雨量1,500mm～1,600mm程度である。 2 農業・農村の現状と課題 (1) 主要農産物について 稲作については、<u>農地の集団化が進んでいる平坦地では</u>、良質・安定生産の「コシヒカリ」、「きぬむすめ」

また、施設野菜（メロン、トマト、イチゴ）、ブドウ、ゆず、わさび、花き、西条柿、肉用牛、乳用牛等が生産されている。

令和４年以降、国際情勢等により、燃油、肥料、飼料をはじめとする生産資材が高騰しており、経営類型を問わず生産費の上昇を招いている。

(2) 担い手の育成について

令和２年の農林業センサスによると、本市の総農家数は１,７２９戸、個別経営体が８２３経営体である。また、基幹的農業従事者の減少や高齢化が進行し、６５歳以上の比率が７８％と高い割合になっている。

中核的担い手である認定農業者数は令和４年度に１１８経営体、認定新規就農者が令和元年度以降２２名となっている。

また、３５の集落営農組織が地域農業の重要な担い手として運営されている。

本市においては、農業者の高齢化及び担い手不足が継続しており、この課題に対応するため、農業担い手支援センターを中核に、認定農業者、認定新規就農者、集落営農組織を中心とした担い手の確保、育成に努めていく必要がある。

(3) 農地の維持について

市街地周辺では、メロン・トマト等施設野菜の生産が積極的に展開されている地域もあるが、都市化圧力の影響を受け、農業経営の拡大は困難になっている。

また、市内２地域にある国営農地開発地は、本市農業の中心を担っているが、造成から相当の年数が経過し、経営の継承が行われていない農地の継続的な有効利用が課題となっている。

中山間地域は、農業生産活動等を通じ国土の保全・水源かん養・良好な景観形成等の多面的機能を発揮しているが、担い手の高齢化・減少により遊休農地面積が増加傾向にあり、周辺農地の耕作やこれまで維持してきた多面的機能の発揮に大きな支障を及ぼす恐れがある。

農業経営体数等統計資料

年次	個別経営体数				経営耕 地面積 (ha)	基幹的農 業従事者 (人)
	総数	主業	準主業	副業		
平成 22 年	1,301	159	273	869	1,287	1,731
平成 27 年	1,080	139	180	761	1,316	1,393
令和 2 年	823	101	119	603	1,132	918

資料：農林業センサス

注；個別経営体数の主副内訳について、平成 22, 27 年は販売農家の内訳

3 将来の基本的方向

(1) 平坦地域

